

(仮称)ロイヤルプロ尾張旭

大規模小売店舗立地法指針項目チェックリスト

1 概要

尾張旭市晴丘町に、専門業者向けのプロ業態のホームセンターの新設を行う。(法第5条第1項)

2 届出の内容

届出年月日	令和5年7月25日		
店舗	店舗名称	(仮称)ロイヤルプロ尾張旭	
	店舗所在地	愛知県尾張旭市晴丘町東33番7	
設置者	名称	ロイヤルホームセンター株式会社	
	代表者	代表取締役 中山 正明	
	住所	大阪市西区阿波座一丁目5番16号	
	その他	なし	
小売業者	名称	ロイヤルホームセンター株式会社	
	代表者	代表取締役 中山 正明	
	住所	大阪市西区阿波座一丁目5番16号	
	その他	なし	
店舗面積	1,228 m ²		
施設の配置	駐車場	位置	別紙図面のとおり
		台数	20台 (指針台数: 46台)
	駐輪場	位置	別紙図面のとおり
		台数	6台
	荷捌施設	位置	別紙図面のとおり
		面積	45 m ²
	廃棄物保管施設	位置	別紙図面のとおり
		容量	7.2 m ³
施設の運営	営業時間	開店	午前6時30分
		閉店	午後8時30分
	駐車場利用時間帯	午前6時00分から午後9時00分まで	
	駐車場出入口	数	1箇所
		位置	別紙図面のとおり
荷捌時間帯	午前6時から午後10時まで		
新設する日	令和6年3月26日		

3 参考事項

敷地面積	5,146 m ²		
建築面積	1,410 m ²		
延床面積	1,410 m ²		
業態	住・生活関連品専門店		
用途地域	工業地域	—	—
備考			

(仮称)ロイヤルプロ尾張旭

4 基本的配慮事項

配慮事項	記述事項
(1) まちづくり計画の検討	市からの具体的な要請があれば、検討させていただきます。
(2) 深夜営業の対応	騒音の発生や防犯対策について、検討しております。
(3) 住民説明会の開催	地域住民等の理解が得られるよう説明、周知を行う。
(4) テナントの履行確保	テナントの履行確保に努めます。
(5) 責任者の任命	施設管理者を責任者として任命致します。
(6) 予測乖離時の措置	関係行政機関と協議の上、指針に沿った合理的な措置を講じます。
(7) 通年の臨時措置	繁忙時には交通整理員を配置します。
(8) 開店時の臨時措置	混雑状況に応じて交通整理員を適宜配置致します。

5 施設の配置及び運営方法に関する事項

1 駐車需要の充足・周辺地域の利便確保のための配慮

(1) 交通に係る事項

ア 駐車場の必要台数の確保

(ア) 小売店舗の必要駐車台数

a 指針による算出

行政人口	店舗面積S	日來客数原単位A (人/千㎡)	ピーク率B	駅からの距離 (商業系地域の 場合)	自動車分担率 C	平均乗車 人員D	ピーク1hの 来台車数F <small>S/1000×A×B×C/D</small>	平均駐車 時間係数G	必要駐車台数 F×G
83,774人	1,228 ㎡	1,063.2	14.40%	1,650 m	80.00%	2.00 人	75 台	0.61	46 台

総駐車台数	-	従業員等駐車台数	-	業務用駐車台数	-	搬出入用駐車台数	-	併設施設駐車台数	=	来客用駐車台数	評価
42 台		22 台		0 台		0 台		0 台		20 台	△

b 指針によらない「特別な事情」による算出

当該計画店舗は、専門業者向けのホームセンターであり、「大規模小売店舗を設置する者が配慮すべき事項に関する指針」の特別な事情として例示されているとおり、「店舗面積に比して1日に来店する客数が極端に少ない場合等当該店舗の特性により日來客数原単位を用いることが著しく不適当な場合」に該当すると考えられる。そのため当該計画店舗の必要駐車台数は、既存類似店舗の実態調査を考慮した台数にて算定を行い、必要駐車台数は20台と算出した。

店舗名称	醍醐店	横大路店	伊川谷店	計画店舗
S:店舗面積	2,289 千㎡	2,997 千㎡	3,735 千㎡	1,228 千㎡
A:日來客数原単位	391.1 人/千㎡	401.1 人/千㎡	330.4 人/千㎡	401.1 人/千㎡
B:ピーク率	9.46%	9.96%	9.27%	9.96%
C:自動車分担率	89.63%	90.95%	95.49%	95.49%
D:平均乗車人員	1.18	1.09	1.18	1.09
E:平均駐車時間係数	0.278	0.348	0.462	0.462
必要駐車台数	18 台	35 台	43 台	20 台
ピーク時来台数	64 台/時	100 台/時	93 台/時	43 台/時

(イ) 小売店舗に併設施設を含めた必要駐車台数

店舗面積S	併設施設の面積の合計(S)	併設施設の割合X (S)÷S×100	指針値との比率式 0.002X+1.38	併設施設を含めた必要駐車台数
1,228 ㎡	166 ㎡	0.13518		46 台

総駐車台数	-	従業員等駐車台数	-	業務用駐車台数	-	搬出入用駐車台数	-	併設施設駐車台数	=	来客用駐車台数	評価
42 台		22 台		0 台		0 台		0 台		20 台	○

(仮称)ロイヤルプロ尾張旭

イ 駐車場の位置及び構造等

1平面自走オペレーター:無	2平面自走オペレーター:有	3機械式駐車場	共用駐車場数	ピーク1hの来台車数
1箇所	0箇所	0箇所	0箇所	75台

ウ 駐車場形式・出入口数・位置・駐車待スペース・分散確保・交通整理

種別	1	収容台数	20台		歩行者動線	分離	騒音配慮	駐車場の平面化	排ガス配慮	アイドリングストップ		
		出入口数	道路種別	道路幅員	歩道	交差点距離	駐車待スペース	予測来台車数	道路形態	入出庫方法	整理員	評価
東	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	1箇所	国道	16m	あり	5m超	-	43台	双方向	右左折混合	あり	○	
交通整理員等の配置		年間を通して混雑する時期のみ配備										

	駐車場法の基準	駐車場出入口の数・位置	駐車待スペース	駐車場の分散確保	出入口における交通整理
評価	○	○	○	○	○

エ 周辺交通状況の把握

交通量調査	来客車両等の方向別予測	店舗周辺状況調査	交通流動の予測
実施	実施	実施	実施(交差点需要率等の検討)

(ア) 交差点需要率等の検討

		休日			平日		
		現況	開店後	評価	現況	開店後	評価
交差点A	需要率	0.545	0.549	○	0.554	0.560	○
	将来交通量/可能交通容量	0.625	0.636	○	0.643	0.655	○
	ピーク時間帯	13時台			11時台		
交差点B	需要率	0.620	0.632	○	0.633	0.645	○
	将来交通量/可能交通容量	0.862	0.870	○	0.714	0.722	○
	ピーク時間帯	15時台			8時台		
交差点C	需要率	0.620	0.643	○	0.581	0.601	○
	将来交通量/可能交通容量	0.695	0.723	○	0.780	0.809	○
	ピーク時間帯	12時台			10時台		

右折の評価		休日			平日		
		現況	開店後	評価	現況	開店後	評価
入庫	評価	-	非常に小	○	-	非常に小	○
	ピーク時間帯	15時台			8時台		
出庫	評価	-	非常に大	△	-	非常に大	△
	ピーク時間帯	15時台			8時台		

※周辺道路の混雑を回避するための対策等

オープン時等、状況に応じて適宜交通整理員を配置します。

(仮称)ロイヤルプロ尾張旭

オ 駐輪場等の確保等

駐輪場の位置及び箇所数	店舗北側 1箇所
駐輪場の収容台数	6台
標準収容台数	36台
収容台数根拠	特別な事情による

ア 必要駐輪台数6台

イ 必要駐輪台数算出根拠

項	目	各項目算出のための計算式等
行政人口	83,774人	令和5年4月30日 現在
用途地域	工業地域	その他地区での計算
S:店舗面積	1,228千㎡	1,228㎡/千㎡
A:店舗面積当たり日来店客数原単位	1063.16人/千㎡	人口40万人未満の値 1,100-30S(S<5の場合)
B:ピーク率	14.4%	
L:駅からの距離	1,650m	駅名:名鉄瀬戸線 三郷駅
C:自転車分担率	5.24%	※既存類似店舗実態値による
D:平均乗車人員	1.00人/台	自転車の乗車人数
E:平均駐輪時間係数	0.613	店舗面積10,000㎡未満
F:必要な駐輪場台数	6台	$A \times S \times B \times C \div D \times E$
届出の駐輪台数	6台	

※別添資料「既存類似店舗の実態調査に基づく必要駐車台数等の算出」より、値が大きい5.24%を採択しました。

位置評価	台数評価
○	○

カ 自動二輪車の駐車場の確保

自動二輪車駐車場の確保	なし	収容台数	0台
位置及び箇所	-		

位置評価	台数評価
○	○

キ 荷捌施設の整備等

(ア) 荷捌施設の整備

停車位置	専用出入口・通路	面積	営業時間外の搬入	平均処理時間	同時処理可能台数	ピーク時車両数	処理能力
敷地内	混在	45㎡	あり	20分	1台	2台	○

(イ) 計画的な搬入

搬入ピーク	台数	道路混雑ピーク	道路余裕時間帯	施設運営計画の有無	荷捌待スペース	評価
6:00~7:00	2台	8:00~15:00	6:00~7:00	なし	なし	○

(仮称)ロイヤルプロ尾張旭

ク 経路の設定等

(ア) 車両関係

a 来客車関係

案内表示の設置	交通整理員の配置	情報提供	生活道路の回避	通学路の回避	療養施設等の回避	右折経路
あり	配置	チラシ配布	回避	回避	回避	あり

b 搬出入車両関係

通学路との交錯	登下校時間の運行	登下校時間の交通整理員
なし	なし	—

※非配備の場合等の対応

搬出入車両の入出庫時は従業員等により歩行者注意の意識を徹底し、安全確保に努めます。

c バス・タクシー等交通機関関係

駐車場の確保
バス・タクシー等の停留所なし

d 地方公共団体・公共交通事業者の事業関係

パークアンドライド事業等への協力
事業なし

評価
○

(イ) 歩行者通行関係

通り抜け可能通路の保持	通行妨害施設	閉店後の夜間照明の設置
必要なし	なし	必要なし

評価
○

(ウ) 廃棄物・リサイクル関係

廃棄物減量化計画	リサイクル活動推進計画
実施	実施

評価
○

(エ) 防災・防犯対策への協力

a 防災への協力

避難場所の提供	物資の緊急提供	その他
締結可能	締結可能	

b 防犯への協力

夜間照明の配置	警備員等の巡回	その他
配慮あり	あり	

評価
○

2 生活環境悪化防止関係

(1) 騒音発生に係る事項

ア 騒音問題対応策

(ア) 一般的対策

	住居(距離)	高層住居(距離)	騒音発生源	遮音壁(高さ)	緑地帯	その他の対策
東方向	10m	なし	大型車両、作業、設備機器	なし	なし	—
西方向	10m	なし	設備機器	なし	なし	—
南方向	40m	40m	設備機器	なし	なし	—
北方向	24m	なし	来客車両、大型車両	なし	なし	—

遮音壁の影響	なし
--------	----

(イ) 営業活動の騒音対策

早朝・深夜荷捌きの有無	なし
荷捌施設建築計画面での配慮	荷さばき施設は、十分な作業スペースを確保
荷捌作業運営面での配慮	アイドリングストップ、作業員への騒音防止意識の徹底
放送設備使用面での配慮	屋外放送なし

(ウ) 付帯設備及び付帯施設等における騒音対策

冷却塔、室外機等からの騒音配慮	低騒音型機器の導入、必要最小限の稼働
給排気口等からの騒音配慮	低騒音型機器の導入、必要最小限の稼働
駐車場からの騒音配慮	アイドリングストップの呼びかけ
廃棄物収集作業等に伴う騒音配慮	早朝、深夜の作業回避
経年劣化等の事後対策	定期的なメンテナンスにより経年劣化を防ぎます

(エ) 併設施設における騒音対策

施設面の騒音配慮	該当なし
運営面の騒音配慮	室外機の最小限の稼働

(仮称)ロイヤルプロ尾張旭

イ 騒音の予測評価

予測対象騒音	定常騒音	空調機室外機	5	キュービクル	1										
		冷凍機室外機	0	排気口	11										
	変動騒音	自動車走行	○	後進警報ブザー	○										
		ゴミ収集作業	○												
衝撃騒音	荷さばき作業	○	台車走行	○											
建物の構造(高さ)		鉄骨造1階建(6.4m)													

(ア)等価騒音レベル予測

		北(A)	東(B)	南(C)	西(D)
用途地域		工業地域	準工業地域	市街化調整区域	工業地域
昼間基準値		60 dB	60 dB	55 dB	60 dB
夜間基準値		50 dB	50 dB	45 dB	50 dB
設置者	昼間等価騒音レベル	42.5 dB	55.1 dB	40.9 dB	47.3 dB
	評価	○	○	○	○
	夜間等価騒音レベル	19.4 dB	26.0 dB	26.3 dB	39.7 dB
	評価	○	○	○	○
県	昼間等価騒音レベル検証	妥当	妥当	妥当	妥当
	夜間等価騒音レベル検証	妥当	妥当	妥当	妥当

※基準値を超えた場合の対応等

すべての予測地点において、昼間及び夜間の等価騒音レベルは環境基準を満たします。従って、周辺的生活環境への影響は軽微であると考えます。万が一、周辺の住居の方々より騒音に関するご意見を頂いた場合には、原因を明らかにし、当該店舗が起因している場合には、最大限対応致します。

(イ)夜間における騒音ごとの予測

A 商工系地域で周囲50m以内に学校、保育所、病院、患者収容施設を有する診療所、図書館、特別養護老人ホームの有無					無
B 工業地域で住居系地域との境界線を50m以内に有するか否か					
上記A・Bの具体的内容		—			
		東(P1)	西(P2)		
用途地域		工業地域	工業地域		
基準値を5dB減ずる要因		なし	なし		
基準値		60dB	60dB		
設置者	定常騒音の騒音レベル	38.6 dB	51.4 dB		
	評価	○	○		
	変動騒音と衝撃騒音の騒音レベルの最大値	38.6 dB	51.4 dB		
	評価	○	○		
県	定常騒音の騒音レベル検証	妥当	妥当		
	変動騒音と衝撃騒音の騒音レベルの最大値検証	妥当	妥当		

※基準値を超えた場合の対応等

すべての予測地点において、騒音レベルの最大値は規制基準を満たします。従って、周辺的生活環境への影響は軽微であると考えます。万が一、周辺の住居の方々より騒音に関するご意見を頂いた場合には、原因を明らかにし、当該店舗が起因している場合には、最大限対応致します。

(仮称)ロイヤルプロ尾張旭

(2) 廃棄物関係

ア 廃棄物等の保管について

悪臭問題関係配慮	建物に内蔵し、密閉性を保ちます。
衛生問題関係配慮	廃棄物保管施設は定期的に清掃します。

(ア)小売店舗の必要保管容量

a 指針に分類される廃棄物等

取扱品目	届出容量	保管日数	日排出量	見かけ比重	必要保管容量	見かけ比重の変更	評価
紙廃棄物用	2.80 m ³	1日	0.255 t	0.10 t/m ³	2.55 m ³	変更なし	○
金属製廃棄物用	0.10 m ³	1日	0.009 t	0.10 t/m ³	0.09 m ³	変更なし	○
ガラス製廃棄物用	0.10 m ³	1日	0.007 t	0.10 t/m ³	0.07 m ³	変更なし	○
プラスチック製廃棄物用	3.60 m ³	1日	0.025 t	0.01 t/m ³	2.46 m ³	変更なし	○
生ごみ用	0.40 m ³	1日	0.208 t	0.55 t/m ³	0.38 m ³	変更なし	○
その他可燃性廃棄物用	0.20 m ³	1日	0.066 t	0.38 t/m ³	0.17 m ³	変更なし	○
合計	7.20 m ³	-	-	-	5.72 m ³	-	○
保管日数の設定根拠	毎日回収						
見かけ比重変更の理由	変更なし						
指針と異なる算定式の使用	変更なし						

b その他の廃棄物等

該当なし

(イ)小売店舗以外の施設の必要保管容量

a 飲食店の廃棄物等

小売店舗と別途確保

b 小売店舗以外の施設の廃棄物等(廃棄物等の保管場所が小売店舗と同一の場合)

小売店舗と別途確保

(ウ)小売店舗から排出される廃棄物の増減要因

廃棄物排出量を減少させる要因		廃棄物排出量を増加させる要因	
レジ袋削減の実施	あり	空缶・空き瓶の回収箱設置	あり
ダンボール不使用納品の実施	なし	食品トレーの回収箱設置	なし
生ゴミ堆肥化施設の使用	なし	ペットボトルの回収箱設置	あり
廃棄物等圧縮機の使用	なし	食品加工場の設置	なし
脱水装置の使用	なし	物販店以外の施設との保管施設の共有	なし
その他	なし	その他	なし

※その他廃棄物減量化及びリサイクル等に係る取組み

・ 分別の徹底によりごみの減量化に努めます。

(エ)廃棄物保管施設の位置・構造

位置・構造	種類・処理方法ごとの分別の実施	分別廃棄を実施
	搬出作業の利便性の確保	特になし
	搬出作業の騒音・悪臭対策の確保	極力段差のない構造とする。
	生ゴミ保管施設の温度管理等の実施	なし
	生ゴミ保管施設の密閉性の確保	あり

イ 廃棄物等の運搬や処理について

十分な搬送頻度の確保	毎日搬送
繁忙期の特別な措置	搬出回数を増やす
運搬(予定)業者(免許番号)	未定
運搬業者・処理業者に対する情報提供	特になし
敷地内処理の配慮	すべて敷地外処理
廃棄物運搬・処理実施要綱等の制定	なし

ウ その他廃棄物関連対応策について

食品加工場等からの悪臭防止対策	該当なし
併設施設からの悪臭防止対策	該当なし

評価
○

(仮称)ロイヤルプロ尾張旭

(3) 街づくり等への配慮

街並みづくり等への配慮	外観・色彩等	・周辺の街並みに対して過度な色彩、外観とならないように配慮します。
	環境美化活動	○ 従業員により定期的に店舗敷地の清掃を行う。
市町村等の公的計画への協力	協力要請があれば検討します。	
照明等の配慮	光害に配慮し、周囲への光漏れを抑えた配置を計画致します。	
敷地内の緑地計画	緑地設置無し。	

評価
○

市町村の意見概要	対応
意見なし	—

住民等の意見の概要	対応
意見なし	—

県の意見案
意見なし